

学校法人 東放学園
東放学園専門学校 殿

2019年度 学校関係者評価委員会報告書

東放学園専門学校
学校関係者評価委員会

1. 学校関係者評価委員

【学校運営に関する有識者・委員長】

岸田 真 桜美林大学 芸術文化学群 教授

【関連業界】

末岡 俊一 株式会社 ザ・ワークス (制作系)

小川 尚人 一般社団法人 日本ポストプロダクション協会 (映像・音響系)

深井 一彦 株式会社 パシフィックアートセンター (美術・照明系)

【高校教員】

田口 裕基 日本大学鶴ヶ丘高校教諭

【保護者】

小川 明美 照明クリエイティブ科2年生保護者

【卒業生】

小河原 義一 元(株)TBS テックス、TOHO 会名誉会長

2. 事務局

関谷 信浩 校長

加藤 諭 副校長

堀内 和人 教務教育部 部長

亀山 治 学務管理部 部長

吉倉 英基 学務管理部

3. 学校関係者評価委員会の開催状況

【1回目】2019年6月8日(土) 14:00~16:00 東放学園専門学校 2P2 教室

【2回目】2019年7月13日(土) 14:00~16:00 東放学園専門学校 2P2 教室

4. 学校関係者評価結果

※別紙のとおり

※別紙

4. 学校関係者評価結果

【評定基準】

- 4：適切に対応している。課題の発見に積極的で今後さらに向上させるための意欲がある。
- 3：ほぼ適切に対応しているが課題があり、改善方策への一層の取組みが期待される。
- 2：対応が十分でなく、やや不適切で課題が多い。課題の抽出と改善方策へ取組む必要がある。
- 1：全く対応をしておらず不適切。学校の方針から見直す必要がある。

I. 2018年度重点目標について

重点目標1. 中途退学者及び退学率の低減

コメント	評定
<p>・課題に対しては各学科別の分析もしっかり行っており、学校としての十分努力が見られる。退学に至る経緯は各個人の事情から致し方ない要素が大きいと思われる。その中、学生本人、保護者を交えた面談、カウンセリングなど、手厚い対応を取られている事、学生本人のやる気の維持に対し教育内容やカリキュラム、分かりやすい進路実績の公表など、指導側の前向きな姿勢もあり、低減に結びついていると感じる。</p> <p>・毎年持ち越されている課題であるが、教職員の弛まぬ努力や行動によって、僅かながらではあるが低減に繋がっている。</p> <p>・家庭の事情などのやむを得ない理由によるDOもあるが、近年は「自分が思っていたのとは違う」という、周囲からはなかなか理解しがたい理由で、あっさりと退学してしまう学生も少なくない。入学に至るまでの本人の心理的過程や保護者の経済的負担を考えると、受け入れがたいところがある。しかし、それに対応すべく担任制に加えて、専任のカウンセラーを置くなど、充分に対応していると思われる。</p> <p>・重点目標の設定については、適性であり課題も明確になっていることから取り組みに対しては十分努力が見られます。取り組みが成果として表れていないように感じる点が残念です。新しい視点と取り組みによりさらなる検討を期待する。</p> <p>・24時間対応の相談ダイヤル、カウンセリングルーム（専任カウンセラーが対応）の設置、保護者会の実施、教職員による個人面談の強化など、退学者低減にむけ多くの対策に取り組んでいると思います。その結果、退学率が目標内であることは評価できる。</p> <p>・目標値を高く設定しているが、クリアしている点は評価できる。ただ退学者の本当の理由を確実に把握しなくてはいけないと思う。</p> <p>・中途退学者や退学率の低減については高校も大学も同じ問題を抱えている。進学先を決める際に志望校の中途退学者の数や退学率について調べるように指導されているので受験生も保護者も関心が高い点である。その点で前年度よりも低減が達成できたことは評価に値する。</p>	3

重点目標 2. 就職率の向上

コメント	評価
<ul style="list-style-type: none"> ・売り手市場の現在、学生にとっては追い風の状況があるとは言え、映像業界について厳しさは否めない。その中、様々な分野の企業説明会等も行っており、残す課題は、学生自身の就職意識ではないだろうか。重点目標 1 の中途退学率の低減を見れば、その意識は高まっている裏付けと思えるので、いかに広く就職先を学生に支援できるかがポイントと感じる。 ・学内就職担当とキャリアサポートセンターとの結束による企業へのアプローチや、TBS グループとの太いパイプを活用した働き掛けなどで就職率のアップに努めている。 ・専門学校の社会的評価は就職率にある。長年にわたる実績のある貴校では、すでに多くのエンターテインメント業界で卒業生が活躍している。どの学科も 8 割を超える就職率であり、その人脈は、たいへん貴重なものであると思う。変化の早い世の中にも、対応していると感じる。 ・「優良企業」への就職者の増加を目指すなど「質」の向上を目指している点は、現在のニーズにマッチしており積極的に推進していただきたい。企業での離職率が下がれば今後の採用にもつながっていくと考えられる。同時に「質」の向上により企業からの募集が増えることも予想されるため受け入れ先の増加につながることを期待する。 ・キャリアサポートセンター、就職課と多方面から学生の就職支援を行っていると思います。また、就職講座、ビジネスマナー講座、面接対策セミナーなどの実施により、就職率の向上に繋がっていると思います。 ・就職セミナーや企業説明会などを数多く開催して学生たちに興味を持たせていると思う。 ・この項目も受験生、保護者が注目するポイントである。その点で昨年度より向上したことは評価できるし、今後の課題として就職後の離職率の低減にまで視野を広げている点は大いに評価できる。 	4

重点目標 3. ICT を活用した新たな教育方法の開発及び業務の効率化を検討

コメント	評価
<ul style="list-style-type: none"> ・新たな取り組みとして学生の出席率の向上システム化を促進しており、その成果が楽しみである。保護者への配慮も含まれており、指導側の現在の学生のトレンドを図る意味でも導入を急がれたい。又、常々の e-ラーニングの取り組みなども評価できる。 ・幾つかの ICT を活用した取り組みに挑戦しているが、今後も有効利用したより良い活用で、円滑な教育に臨んでほしい。 ・変化、進化していくテクノロジーに対応している。タブレットによる出席管理などのキャンパスプランも十分なものであろう。テクノロジーの発達は仕事量の増加も意味しており、そのバランスが今後の課題となる。 ・ICT の導入計画が進んでいる点は評価できる。出席状況を効率的に把握できることで教職員の負担が改善され、その分学生に注力できるようになることが望ましい。システム導入のためのコストなども関わってくるが、顔認証システムを取り入れている大学なども出てきているようなので事例などを良く分析して一番ふさわしいシステムの導入を目指していただきたい。 ・時代の変化に伴った ICT の有効活用が必要だと思いますので、今後も検証を重ね、教育向上に繋がってほしいと思います。これから導入される「キャンパスプラン」にも期待する。 ・ICT を活用し効率よく授業をするように努力をしていると思う。これからも研究を重ねてより良い方向に向かってほしい。 ・現在全国の高校の五割がベネッセコーポレーションの Classi を導入している。使用方法は iPad を貸与している学校よりも自分のスマホにインストールして使用させている学校が多数派である。そのような生徒が入学してくることを考えると 2018 年度の達成状況、今後の課題共にやや取り組みの遅れを感じる。 	3

II. 評価項目別取組状況について

基準1 教育理念・目的・育成人材像

コメント	評価
<ul style="list-style-type: none"> ・理念や目的などは適切で、目指す方向は有意義で正しいと思います。但し、現在の学生の多国籍化を踏まえるとその理念や育成が文化や風習の違う他国の学生にどこまで浸透させられるのが課題と思われる。その中で、社会人の基本となる「挨拶」の徹底された姿は、大いに評価できる。専門的な知識の育成も大切だが、日本という国の風習や習慣、考え方に対して取り組んでみてはと希望する。 ・マスメディア関係への人材教育を目指しながらも、一般社会人としての常識や知識をも兼ね備えるべく人材育成に日々勤しんでいる。 ・時代は変化していくものであるが、理念や目的は、そう安易に変えるものではない。創設時から変わらぬ理念のもとに、明確な目的を持ち、多くの人材を送り出していることは高く評価できる。 ・「己と和と成長」を基本として、未来に向かって豊かな価値を創造し、メディアとエンターテインメントの発展に貢献できる人の育成を目指します。という基本理念であるが「基本理念」に基づいた「使命」「行動指針」については十分評価できると感じる。基本理念の「己と和と成長」そしてTOHOメソッドの浸透について更なる工夫を期待したい。 ・理念・目的などは適切であり、「学生ガイド」にも教育方針として解りやすく書かれ、学生にも徹底されていると思います。特に挨拶は実践されている。 ・エンターテインメントの学校であるので自由でクリエイティブな想像力を育ててほしい。挨拶はきちんとできている。 ・学校にとって自校の「教育理念」をいかに短期間で学生に浸透させるか、ということは永遠の課題である。ましてや専門学校は2年間という短期間勝負なのでその苦労は想像に難くない。貴学もホームページ等で周知を図っているようだが、取り立てて斬新な方法が用いられているとは思えない。 	3

基準2 学校運営

コメント	評価
<ul style="list-style-type: none"> ・学生に向けた取り組みは問題なく促進されていると思う。その中で昨今の「働き方改革」に対する取り組みも慎重に行われている。とかく、残業が低下する事から所得の低下が指導側のモチベーションを下げかねないと危惧するが、講師陣、運営人の評価システムの変更など、しっかりと取り組んでおられることが確認できた。 ・学園内検討会は勿論のこと、学校長会や理事会の意見を仰ぎながら、東放学園専門学校の特色を活かしつつ、教職員ひとり一人が向上心を持って努めている。 ・スクラップ・アンド・ビルドを繰り返し、時代に適合しない学科は廃止し、新たな学科を創り、適切に新陳代謝をしている。失敗もあっただろうが、総じて運営は健全で、かつ適切なものであるように思われる。働き方改革への対応が今後の課題であろう。 ・少子化の時代になり学生数の確保が難しい状況である中、学生の確保に注力し運営されている点は評価できる。カリキュラムの充実と内容に見合った教職員の採用といった『授業の中身』が重要な課題かと感じる。教職員の働き方改革への対応も検討すべきである。 ・事業計画が適正に立てられ、遂行されていると思います。教員の「働き方改革」にも取り組んでいるように思う。今後は避けられない少子化問題にむけ、さまざまな取り組みを続けて頂きたい。 ・事業計画を立てそれに沿ってできている。 ・総括と課題からは貴学の新規教職員の募集に対する応募状況の記述はないが、高校ではここ1~2年、非常勤講師の募集に大変苦慮している。2018年対策でむやみやたらに専任を増やすことは将来の経営を圧迫することになり、かといって適切な補充をしないと現場は停滞する。この相反する問題への危機意識が感じられた。 	3

基準3 教育活動

コメント	評定
<ul style="list-style-type: none"> ・学生にとって、就職した先で学んだ事が発揮できるか否かがポイントでもあるが、専門的な知識以外に、社会人とは何かを事前に知る事で大きな違いが出るように思える。自分の持つスキルと実現場でのギャップは企業によってその差はあるが、指導者側は認識しておいて損はない。むしろ専門スキルよりも重要かもしれない。その為には各企業とのパイプを持つ事や会話を持つことに重点をおかれたら良いと思う。 ・多様化するメディアの変化に、怯むことなく敏感に反応しながら対応策を講じている。 ・学校は教育の場であるが、実際に教職員は、授業準備や多くの会議や打ち合わせに忙殺されている。そのなかで紀要集を出すほどの活動は、なかなかできるものではない。 ・放送業界・エンターテイメント業界へ充実した人材を送り出す使命を担っている学校の存在として学生を引き付ける魅力的な部分は数多く持っている。基本理念の「己と和と成長」そしてTOHOメソッドに沿って社会の流れに合わせたバランス感覚を持って取り組んでいただきたい。 ・アクティブラーニングを導入するなど、時代に合った授業の進め方を工夫されていると思います。また、業界・企業の方々とのパイプを活かし、各業種の現状を知る事が出来る授業展開を行っている事は素晴らしと思います。今後は社会人としてのコミュニケーション能力向上の強化が望まれる。 ・一般教養及び専門分野においてきちんとカリキュラムができています。 ・教育活動については全般的に積極的な対応を感じられた。特に授業評価を年2回実施し、教育課程の改定や授業改善などに活用している点は非常に好感を持た。授業改善はともかく、教育課程の改定に授業評価を基に改善するというフットワークの軽さは評価できる。 	4

基準4 学修成果

コメント	評定
<ul style="list-style-type: none"> ・授業によって持ったスキルをしっかりと定量化させて評価し、学生にその成果を持って自信を付けさせて欲しい。作品の制作など定量化の難しいものもあるが、制作期間、寸評会などから目に見える形で成果を伝える事を希望する。また、成果として学生の場合は途中経過の努力も評価されるが、社会人となると過程ではなく、結果だけを評価される事もあるので、その点も指導されると良い。 ・結果として就職率が向上していることで成果が出ていることは明らかである。また、就職後の評判や活躍は目覚ましい。 ・その成果の最大のもは就職率であろう。企業説明会の実施、キャリアサポートセンターの充実など、力をいれていることがわかる。留学生への対応が今後の課題であろう。 ・キャリアサポートセンターの活動は、他校に比べ熱心であり学生一人一人に対しての働きかけなど支援体制については評価できる。支援体制の充実の結果として就職率に表れているのではないかと感じる。 ・企業説明会開催、パーソナルシステム活用、キャリアサポートセンターと就職課との連携によるサポート、個人面談と、多方面から学生をサポートし就職へと導いていると思います。就職率が目標を上回る実績であるという事が、その成果の顕れであると思う。 ・いろいろな資格が取得でき、就職率が高いので成果としてはいいと思う。 ・専門学校としては就職率の向上というのは高校にとっての大学進学率のようなものと考え。就職率の目標設定をしているということだが、その目標設定はどのような根拠に基づいている設定されているのか、関心がある。また、卒業生の社会的評価というのは求人率にも直結する要素であると考えられるので、重要なポイントなのでさらに多様な方法で情報収集と分析を続ける必要がある。 	3

基準5 学生支援

コメント	評定
<ul style="list-style-type: none"> ・進路担当者、キャリアサポートセンターなど、進学やデビューへの支援は充実していると思います。中途退学への対応も学校が提供する奨学金に関しての周知や保護者会を執行されているのでそこでの将来像を現実的にお教えしたら如何でしょうか。 ・痒いところまで手が届いているとまではいかないものの、東放学園全体でのサポート体制はここ数年、行き届き充実しているように思う。 ・文化祭のときでもよいではないかという案も出ている保護者会などの、長年にわたる実施。24時間対応の電話相談など、努力が認められる。 ・カウンセラーの配備や相談窓口の設置によりサポート体制が確立されている点については評価できる。悩みを抱えている学生が少ないに越したことはないが、家庭環境や経済的な面も含め社会生活や学校生活の上で思春期でもある学生が様々な悩みに直面するのは当然のことでありそういった部分のサポートが出来ていることは良いことである。留学生への配慮も行われており生活面での支援の他精神面での支援体制について今後もできるだけ拡充していくことを望む。 ・クラスアドバイザーをはじめ就職アドバイザー、経済支援、奨学金制度、相談ダイヤル24、カウンセリングルームとサポート体制は優れている。 ・カウンセラーによる相談や保護者会の実施など学生のために努力をしていると思います。 ・専門学校に入学する学生というのは補助金がない分、学費が高額であることをどの程度理解しているのかは不明であるが、当然、奨学金の種類や使用方法などについて入学前にガイダンスを実施するなど学生・保護者への啓蒙活動が重要である。その点で一層の努力と工夫が必要だと考える。 	4

基準6 教育環境

コメント	評定
<ul style="list-style-type: none"> ・学食の希望や、ホール所有の希望など検討しようとしてされている姿勢は良き事である。インターンシップの活用も行われており、その中でも卒業生(0B,0G)の在籍している企業への働きかけからの企業研修なども大きく評価できる。 ・100%満足のいくものではないが、不満が出てくるようなこともなく、国内でも引けを取るようなこともない環境といえる。 ・新宿からの徒歩圏内に多くの校舎を持つ点は、学生にとっても利便性があるだろう。食堂の要求などもあるようだが、周囲に多くの店舗もあり、それはさほど問題ではない。機材や図書も必要なものは揃えているように思われる。 ・近年、テクノロジーの発達や展開が早いため様々な実習機材やソフトウェアの導入方法について検討していただければと考える。設備として設置してしまうと数年後には時代に遅れる可能性があり、社会の動きをできるだけ早く察知し社会のニーズに合わせた教育インフラが必要になる。実習機材のリース契約など更新が容易になるような仕組みの検討を期待する。 ・専門設備は整っていると思うが、食堂、スポーツを行う施設、自習室などがあると良い。 ・最新の機材等を導入し授業を行っている。 ・限られたスペースの中において施設を充実させる事への苦勞が読み取れた。また、避難訓練の数が少ないということを課題に挙げていたが、数を増やすのは現実的には困難だと考える。したがって数よりも避難訓練の目的を明確化し、実施することの意義を周知させることの方が重要だと考える。 	3

基準7 学生の募集と受入れ

コメント	評価
<ul style="list-style-type: none"> ・十分な広報活動、受入れ体制が出来ている。各学科の受入れ数の定量化もされており、増減の管理、対応を取られている。海外からの学生募集なども同様で国別の増減の傾向もしっかりと把握している。就職の際には年齢的に厳しさは増すが、大学卒、離職した人材の確保も視野に入れ活動を希望する。 ・学園全体の取り組みとしては、少子化に向けた対策や行動を怠ることなく積極的に推進している。 ・全国から学生が入学しており、受け入れ体制も整っている。自然災害を恐れて、留学生が減少しているのは、いずれも同じで、やむをえないことである。 ・オープンキャンパスなどで実際に足を運んで設備などを体験いただくような機会があり、入学後のギャップを減らすイベントについては評価できる。学校説明会や学園のパンフレットの充実で授業風景や学校生活の楽しさなども表現されており募集活動における広報活動については充実しているようである。少子化に伴う学生数の減少が進む中学生を確保できている点は活動の成果と評価する。 ・業界では老舗の学校であり、今までの実績や卒業生の活躍もあり、安定した学生数を獲得できていると思います。更にそれに甘んじる事なくオープンキャンパスをはじめ、最近の学生の傾向であるSNS情報への募集にも力をいれている事も評価できる。 ・体験入学などを数多く行い多くの学生が入学していることはいい事である。 ・日本国内だけでなく、海外複数国からも入学者がいるということは広報体制、受け入れ体制ができているからであり、2018年問題対応としてこれはストロングポイントとして挙げられる。高校等の教職員に対する入学説明会についても言及されているが、大学への進学者が多数派である現状ではなかなか、専門学校の説明会に参加する余裕がないのが高校の現状である。そのあたりをどう解決していくが課題である。 	3

基準8 財務

コメント	評価
<ul style="list-style-type: none"> ・基本的に学園の法人本部でまとめているが、学校単位の決算を必要とするものもある。財務情報の公開もHP上でされており問題はない。今後も安定した財務を望む。 ・少子化での学生確保からくる収入の目減りは否めないが、それに合わせた効率の良い経営に努めている。 ・複数の校舎を所有、維持し、無駄な資産は処分するなど財務状況は健全であると思う。 ・特に問題になる点はない。安定した収支を継続いただければと思う。 ・財務、収支バランスは安定していると思う。 ・財務状況は特には問題ないと思う。 ・専門学校は高校・大学とは比較にならないほど、学費に依存する割合が高いので、入学者の確保が健全な財務体制の維持には不可欠であり、そのための実践と対策が十分に取られていると判断できる。 	4

基準9 法令等の遵守

コメント	評価
<ul style="list-style-type: none"> ・学内的には遵守事項は厳しく守られていると思います。今後も個人情報の問題など、法を遵守し、運営側だけでなく、学生への指導も望む。 ・少子化での学生確保からくる収入の目減りは否めないが、それに合わせた効率の良い経営に努めている。 ・パワハラ、セクハラが横行している現代社会にあつて、教育機関である学校も、それらのことがらを無視して過ごすことはできない。教員の言動に過剰反応する学生や保護者もいるので、充分注意していかなければならない。経験を積んだ職員の多い、貴校では大きな問題はないであろう。 ・学生が多数在籍しているため個人情報の取扱いに十分配慮いただきたい。また、セクハラやパワハラといったハラスメントについても一般教育として学生及び教職員への指導等も必要かと感じる。現在社会において SNS での情報発信が多様化していることもあり学生教職員の双方に対しての教育の必要性を感じている。学校としても危機感を持ってほしい。 ・危機管理表を作成し徹底に努めるなど、法令厳守を推進している。 ・本部と連携しきちんとできている。個人情報などはきちんと管理してほしい。 ・ハラスメント対策にはどの社会でも苦勞している。年代や性別によっても捉え方が様々であることがその原因である。この問題を解決するための工夫が感じられた。また個人情報保護についても十分に対応されていると判断した。 	4

基準10 社会貢献・地域貢献

コメント	評価
<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア活動など社会貢献・地域貢献の理念に基づき活動をされています。風習、思想の違う留学生から学ぶ事と日本人が持つ風習、慣習、思想など交流を通じて国際的な社会貢献につなげる活動を希望します。 ・地域への配慮や連携に努めながら、社会に貢献できるような人材育成にも力を注いでいる。 ・エンターテインメント業界で活躍する人材の輩出という社会貢献は言うに及ばず、近隣校からの機材レンタルや、地域清掃など、充分に貢献しているように感じる。 ・学校所在地周辺での地域貢献についてボランティア活動などは評価できるが十分とは言えないと感じる。学生が日々生活している中で「周辺に与えている影響」を考えさせることで自分たちができるボランティア活動の向上をめざせると思う。人間力の向上を視野に入れた活動に取り組んでいくことを期待する。 ・地域との交流（お祭り・地域の清掃など）を行ったり、学校としてボランティア団体へ登録しての活動を行ったりと、地域貢献はできていると思いますが、学生の自主性をもっと育ててほしい。 ・近隣の学校への機材貸し出しや祭りの撮影などの協力ができていると思います。これからもさらに近隣地域に貢献してもらいたい。 ・毎年のように貴学には文化祭で照明器具の貸し出しや指導でお世話になっている。客観的にも主観的にも十分にこの項目については満たされていると判断した。 	3

Ⅲ. 所感

・今回初めてこの学校関係者評価委員会に参加したが、認識よりも深く取り組んだ姿勢を学校がもたれている事に共感を得た。半面、昨今の学生は心が打たれ弱い方が多く、そのメンタル面を如何に強化させるのかも指導する側としては課題であると思う。企業に在職していた時の印象では東放学園の学生は優秀であるという認識を持っており、一つのブランドとなっていると思う。課題は都度あるが、考えや意見が貴校の発展に役立てるよう共に評価委員会を活用していきたいと思う。

・バランスの取れた学校運営や人材育成に学園一丸となり取り組んでいる。このまま向上心と行動力をもって社会貢献できるような人材育成を目指して頂けることに期待したい。

・少子化、テレビ離れという時代の流れに、貴校の直面するいくつかの問題は容易に解決できるものではないだろう。日常業務に加え、学内研修や紀要執筆など、地道な努力を惜しまない職員から成る貴校は、苦労は多いだろうが、困難な状況にあっても、問題解決能力を備えているであろう。

・自己評価報告書において自己分析としては十分行われており課題も明確にされている。放送業界・エンターテインメント業界を担っていく人材の育成については、これまでの経験と十分な実績があり、一つのブランドとして認められていると思う。これまでの実績に奢ることなく時代の流れに合わせた人材の育成に取り組んでいただけることを期待する。

・「東放学園専門学校」という老舗ブランドの専門学校らしく、どの角度から見ても信頼と安定ある学校だと思う。これから少子化という難しい時代になるが、今後も教育方針である「実践教育・人間教育・自立教育」を推進し、社会で活躍できる人を育成してほしいと思う。

・少子化が進むなか入学数も安定し、また留学生の人数も増えている。メディアも多様化しているのでそれぞれに対応できる人材を育成してほしい。

・私の勤務している高校は貴学から徒歩で5分程度の所にある。また勤務校から5分ほど歩くと杉並和泉学園がある。こことは勤務校の生徒が勉強を教えに行く「勉強サポート」を実施している。勤務校では1年生にキャリアガイダンスを実施し、様々な職種の人に講演をしてもらっている。せっかく、近所にある異種学校同士、もっと連携して交流していく機会を設けていきたいと感じた。

以上